

あなたの身を守る 大腸癌にならないポイント

医療法人 社団 信証会
江田クリニック 理事長

えだあかし
江田 証



■略歴

医学博士。

平成14年、自治医科大学大学院医学研究科卒業。

平成14年、自治医科大学研究奨励賞受賞。

平成16年、日本消化器病学会奨励賞受賞。

平成17年、ヨーロッパ消化器病学会 Best Abstract Award受賞。

米国消化器病学会(AGA)国際会員。

日本消化器病学会認定専門医。

日本消化器内視鏡学会認定内視鏡専門医。

日本内科学会認定医。日本ヘルコバクター(ピロリ菌)学会会員。

自治医科大学消化器内科助手、宇都宮社会保険病院内科医長、東京虎の門病院内科レジデント、下都賀総合病院臨床指導医を経て、愛する故郷、下都賀郡岩舟町に江田クリニックを開院。

- 大腸癌の数が増えている
大腸癌が増えています。
- 大腸癌の数が増えている
大腸癌が増えています。
- 成人の死因の第一位は癌です。
そして、その過半数が胃癌・大腸癌・肝臓癌といった「消化器の癌」で占められています。実に、年間9万人近くの日本人が胃癌・大腸癌で亡くなっているのです。
- 大腸癌が増えています。
特に大腸癌の急増が目立ちます。特に、女性の死亡率の第一位は大腸癌となりました。

- 大腸癌の数が増えている
大腸癌が増えています。
- 大腸癌の数が増えている
大腸癌が増えています。
- 成人の死因の第一位は癌です。
そして、その過半数が胃癌・大腸癌・肝臓癌といった「消化器の癌」で占められています。実に、年間9万人近くの日本人が胃癌・大腸癌で亡くなっているのです。
- 大腸癌が増えています。
特に大腸癌の急増が目立ちます。特に、女性の死亡率の第一位は大腸癌となりました。

「えっ、大腸癌だつたんですか？ 症状は全然なかつたのに……」。これが、大腸内視鏡を受けて癌が見つかった方の第一声であることが多いです。そうです。大腸癌は、できてから症状が出るまでの時間が長い癌だと言えるのです。

- 大腸癌が増えている
逆に、大腸癌が大きくなつて、腸閉塞になるなど、症状が出てから見つかった人の大腸癌はすでに進行していることが多く、癌の転移率が高まっているのです。
- 大腸癌が増えています。
従つて、大腸癌は、「見つけようとして見つけないと早期には見つからない癌」であり、いかに症状がない段階で診断するかが重要となります。
- 大腸癌が増えています。
また、早期に発見されれば、大腸癌はその後の経過(予後)がよく、お腹を切らなければ、内視鏡で大腸癌が取りきれてしま

● 危険な落とし穴 ～早期の大腸癌に症状はない～

● 病気です。

- どんな人が危ないか
「あなたは大丈夫？」
- どういう人が危ないのか。

- ① 大腸癌は50歳から急に増えるので要注意

注意

- ② 血縁に大腸癌の方がいる人は注意(家族集積、遺伝因子)
- ③ 野菜を食べない運動不足の人、肥満の人は注意
- ④ 高脂肪食、赤身の肉やアルコールを取りすぎると、タバコが好きな人などは特に要注意と言われています。

● 大腸癌にならないポイント

- 大腸癌にならないポイント
当院に通院している患者さんは、必ず年の後の経過(予後)がよく、お腹を切らなければ、内視鏡で大腸癌が取りきれてしまいます。これは、健診でも広く行われています。大腸癌は充血

していますので、目に見えない血液を便がひつかけてくるわけです。

ですから、「自分で見て便に血が混ざってはいないから大丈夫、症状がないから大丈夫」とは思わないでください。

この便潜血検査を受けることにより、大腸癌の死亡率が、33%減少することが統計上分かっています。便鮮血反応が1回でも陽性なら大腸内視鏡をすべきです。

●大腸内視鏡（大腸カメラ）の進歩

私は軸保持短縮法という苦痛の少ない新しい挿入法で検査を行っています。検査を受けた人は、前回の検査よりも楽だった、思ったより大腸の検査は大変でなかった、とおっしゃいます。

大腸の内視鏡挿入法は、進化しているのです。消化器内科医全体の挿入技術や内視鏡機器は進歩していますので、一昔前よりもずっと検査の苦痛は軽減しています。恐れることなく、検査を受けてみて下さい。

（略）

●大腸ポリープをとることで大腸癌を予防しよう

ほとんどの大腸癌はポリープから生じてきます（少数、ポリープの経路をとらないものもあります）。従って、大腸のポリープを定期的に取つてポリープのない腸（コロン）、すなわち、クリーン・コロンにしておくことで大腸癌になる率を76～90%下げることができます、と統計上分かっています。

このような医療を通じて、私たちは大腸癌をこの地域から減らそうと頑張っているのです。

予防・早期発見に努め、大腸癌で苦しまる方を1人でも減らしていきましょう。

●インターフェロンでC型肝炎を治療しましよう

最後に、死因として多い肝臓癌について少しお話します。

的としたインターフェロン治療費の一部を助成することになりました。

当院は、栃木県の「肝炎インターフェロン治療指定専門医療機関」に認定されましたので、C型肝炎でお悩みの方はご相談ください。



■お問い合わせ

〒329-4314 栃木県下都賀郡岩舟町小野寺2575-7
医療法人 社団 信証会 江田クリニック

<http://www.edaclinic.com/>

TEL.0282-57-1234

1日からC型ウイルス性肝炎の治療を開始しました。栃木県では、平成20年4月からと検査を避けないでいただきたいと思います。

日本最大級の感染症、C型肝炎ウイルス感染者は、国内に150万人以上存在すると言われています。肝炎を治療しないでいると、肝硬変や肝臓癌に進行する可能性があります。肝炎は、ほとんど特徴的な症状がなく、発見が遅れやすく慢性化しやすいのが特徴です。発見次第、すぐに治療を始めましょう。この度、肝炎インターフェロン治療に係る医療費助成制度が開始されました。栃木県では、平成20年4月